

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	歌十首 : 文苑
Author(s)	由多加; 登良男
Citation	龍南會雜誌, 7 : 44 - 45
Issue date	1892-05-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/3830
Right	

野徑雄

視友會員

由多加

春の野にあさるさゝすもたらにたり藤折る子や驚かしけむ

同

同會員

登良男

はの^{はな}くくと花より明くる片岡に聲もかすみて雄なくなむ

風前花

由多加

鶯の羽風をたにもいどふなる花につれあき今日のはるうせ

同

登良男

風よく山下かけの櫻花さためなき世のためえなるらん

柳露

由多加

風吹けは露もみたきて河岸にひまなくひく青柳の糸

同

登良男

うらくと吹くる風に青柳れつら^{はな}さどめし露そみたるゝ

春日遅

由多加

つかの間をしめどいひし唐土の人は春日を如何にくらしゝ

同

登良男

如何にして今日をくらしむ菅根の長き春日にとふ人もなし

社頭祝

由多加

神さひて宮居けるけくあるまゝにいやましきこゆやひらてのこゑ

正行朝臣

登良男

櫛の戸は朽ちはてぬとも留めてし名はものゝふのかゝみぞとなる

翻譯

ヴィクトリア女王傳（續き）

廣田直三郎 譯

ういりあむういるばーふオーす氏ハ久シキ以前ヨリ知テデいくどりヤニ得タリ氏ノ天性小兒ヲ愛スルノ情ハ其皇女ノコトヲ記セル一條ヲ見テ知ルベシ氏が千八百二十年七月一日はんなーむーおニ與ヘタル書ニ云ク

前略陳者今朝けんと公爵夫人ヨリ懇切ナル使命ヲ辱フシ即刻參殿仕候處夫人ニハ御寵愛ナル御姫君ヲ連レ御埃摺有之候姫君ハ床ノ上ナル玩弄具ナド持遊居ラレ候ガヤガテ誕生モ玩具ノ一ト相成候事今更オカシク存候御夫人ニハ御自身御姫君ノ御養育ノ勞ヲ取ラセラレ専心御盡力アルトノコトニ候又タ其節御夫人ハ「妾ハ此子ヲ生ミ落トシテヨリ間モナク此子モ妾モ親ト夫ニ先立タレ誰レヲ便ラン方モナク廣キ國中ニテ支モナク勝手モ分カンス其國語サヘモ話シ得ズ心細ノ至リナリサレド妾ハナスベキコトヲ務ムルニ猶豫セズ妾ガ行末ノ只一ノ目的ト